
指宿市立図書館に集められた カンショの単行書の紹介 ②

元九州農業試験場作物第二部（指宿）
指宿市立図書館甘藷資料研究員

湯之上 忠

1. 昭和10年代カンショの指導資料

下記の図書一覧は昭和10年代に、地方公共機関において作られた資料である。ここに掲げたものは、僅か12冊であるが、今から半世紀前の日本のカンショ作を、都道府県がどのように指導していたのか、それを知るうえに貴重な資料であると思う。

昭和10年代は国策によってカンショが重要視された時代であって、かなり冷涼な地方まで栽培されたのである。各県ともカンショ栽培の指導指針として、この種の資料が作成された筈である。ここには僅か10県分、12冊しか集まっていない。

これら以外の資料をお持ちの方はご連絡頂きたい。

2. 一つの文献（本）について

指宿市立図書館所蔵甘しょ文献目録の中に、A-28、著者不明：薩渡芋語（複製和綴）、版元不明（1834）23pというのがある。

じつはこの本は、我が国のサツマイモ伝播史の上で貴重な文献であると思い、鹿児島県立図書館所蔵の本を複製させてもらったものである。ところが、今後サツマイモの歴史的史料としては利用する上で問題があると考え、詳しい調査をした。

著者も版元も書かれた年代も判らないので

図 書 一 覧

- | | | | |
|------|-------------------------------------|-------|--|
| C-1 | 甘藷馬鈴薯増産指導者講習会講演要旨：福島県農会、(1943) 73p | C-65 | 三餘第二号、甘藷・馬鈴薯に関する特輯号：佐賀県立農事試験場、(1944) 18p |
| C-38 | 甘藷の栽培法：山梨県、(1944) 15p | C-80 | 甘藷栽培法、農家指針第一編：鹿児島県立農事試験場（1938）59p |
| C-40 | 甘藷の栽培法：滋賀県経済部農務課・滋賀県立農事試験場（1940）20p | C-92 | 米穀及甘藷増産完遂方策（昭和19年度）：鹿児島県（1944）59p |
| C-41 | 甘藷栽培指針：兵庫縣、(1941) 27p | C-93 | 甘藷栽培に就いて：鹿児島縣、(1945) 18p |
| C-42 | 甘藷栽培要領：岡山縣經濟部、(1941) 16p | C-149 | 甘藷の栽培法（農事訓練生講本）：沖縄縣農事試験場（1937）28p |
| C-58 | 香川縣の甘藷に就いて：香川縣、(1938) 52p | | |
| C-59 | 酒精原料甘藷栽培指針：愛媛縣農事試験場、(1938) 40p | | |

ある。これでは引用するわけにもいかない。
鹿児島県立図書館で調べたが、結局、肝心なことは判らなかった。

調べて判ったことは、最後の頁に捺印してある丸いゴム印に昭和十年五月六日購入となっていることであった。さらにこれを詳しく調べてみると、購入したとなっているものに鹿児島県立図書館の用紙が使われていた。それは次のような事情によるものであることが判明した。

この頃、県の予算で人を雇い、筆耕を頼み、サツマイモ関係文献として、毛筆で和紙に書いた立派な和綴じの本を自製したものであることが判った。これが作られたのは今から約60年前のことである。残念なことに原本が何か、それが判らない。

内容は、静岡県の御前崎で薩摩藩の御用船が難破した折りに、乗組員を助けた大沢権右衛門がお礼に貰ったサツマイモが、この辺一帯に普及した。そのために、明治末年にその功績が顕彰されたのである。

この本にはさらに、広まったサツマイモを干し芋として加工し、商品化したことが書いてある。

この本を読んで思うことは、御前崎付近の人でなければ到底書けない内容であり、原本が書かれたのは多分、明治時代末頃であろうと考えている。

私は今年（1994）の四月現地に調査に行った。前もって御前崎町教育委員会へ調査目的は文書でお知らせしていた。ここでは探す文献が見つかるものと思っていたが、手がかりさえ得られなかった。時間の制約もあって、今回はそれ以上の調査はできなかった。

翌日は静岡に引き返し、静岡県庁へ行って聞いてみたが残念ながら、判らなかった。しかし、私はこのことを諦めないで史料を探そうと思っている。もしどなたかご存じの方がおられたらご連絡下さい。

〈著者注〉 目録の刊行年は1834年となっているが、これは誤りで、この本を県立図書館で作ったのが1935年だから敢えて書くとすれば1935とすべきだろう。

編集後記 ●気象観測史上空前の暑さにあえ
いだ、まさに苛酷な夏でしたが、
平均降水量1500ミリ以上、全土の
3分の2が山林のわが国での水ききんには
考えさせられるものがあります。国土の保
水能力が落ちたのか、治山治水に意が足り
ないのか、水を浪費する暮らしが定着して
しまったのか、いずれにせよ国民ひとりひ
とりが安全と水とはタダでは与えられない
ことを再認識し、それぞれの分に応じて水
対策を考えるべきではないかと思われます。
●新理事長の就任について 昨秋逝去さ
れた生天目健蔵理事長の後任として、先般、
本会理事倉地英雄氏が新たに理事長として
選任されました。
農業をとりまく環境は一段と厳しいもの
がありますが、その重要性はいささかもゆ
るぐことなく、今後とも本会の事業である
いも類の生産振興、消費拡大のため微力を
傾けてまいりますので、どうか変りませぬ
御教導御支援を賜りますよう、切にお願い
申し上げます。

いも類振興情報 第41号

平成6年10月15日発行

発 行 所 財団法人 いも類振興会
東京都港区赤坂6-10-41
ヴィップ赤坂303号室
電 話 03-3588-1040
振替 00130-1-110152
印 刷 所 交通印刷株式会社